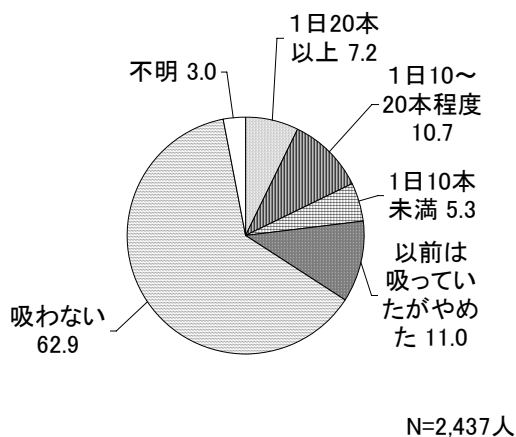


E1. 喫煙度合い

[設問]

Q 1 あなたは、たばこを吸いますか。(○は1つ)

[回答結果(全体)]



No.	回答	今回調査		前回調査 (平成12年11月)	
		件数	%	件数	%
1	1日20本以上	175	7.2	195	8.5
2	1日10～20本程度	260	10.7	278	12.2
3	1日10本未満	129	5.3	125	5.5
4	以前は吸っていたがやめた	267	11.0	177	7.7
5	吸わない	1532	62.9	1472	64.3
6	不明	74	3.0	41	1.8
	回答数	2437	100.0	2288	100.0

[回答結果(詳細)]

喫煙の有無について伺ったものである。

“吸わない”(「吸わない」＋「以前は吸っていたがやめた」方は7割を大きく超え、“吸う”(「1日20本以上」＋「1日10～20本程度」＋「1日10本未満」方は2割程度となっている。

前回調査と比較すると、“吸う”方が3%減少、“吸わない”方が2%増加している。

男女別に見ると、“吸う”方の割合は男性の方で多く、女性の3倍以上となっており、「1日20本以上」が1割を超えている。女性では“吸わない”が8割近くとなっている反面、“吸う”方も1割存在する。

前回調査と比較すると、男女共“吸う”方の割合は減少しており、特に男性で6%減少している。なお、“吸う”方の割合は減少しているが、“吸わない”方の割合に大きな変化は見られない。

年代別に見ると、若い年代で“吸う”方が多く、40歳以下では3割となっている。

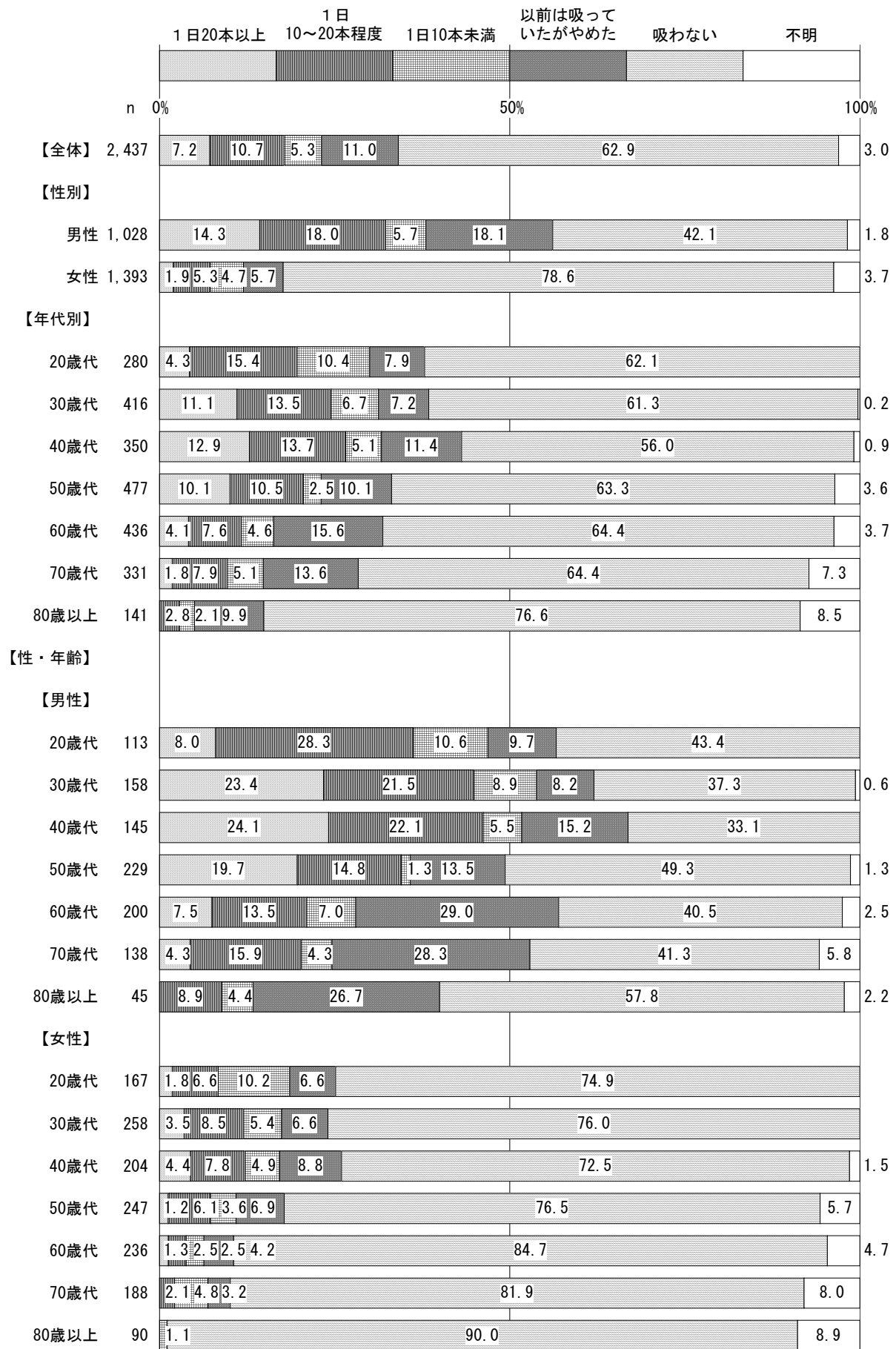
前回調査と比較すると、“吸う”方は40歳代でのみ3%増加している以外は、すべての年代で減少している。

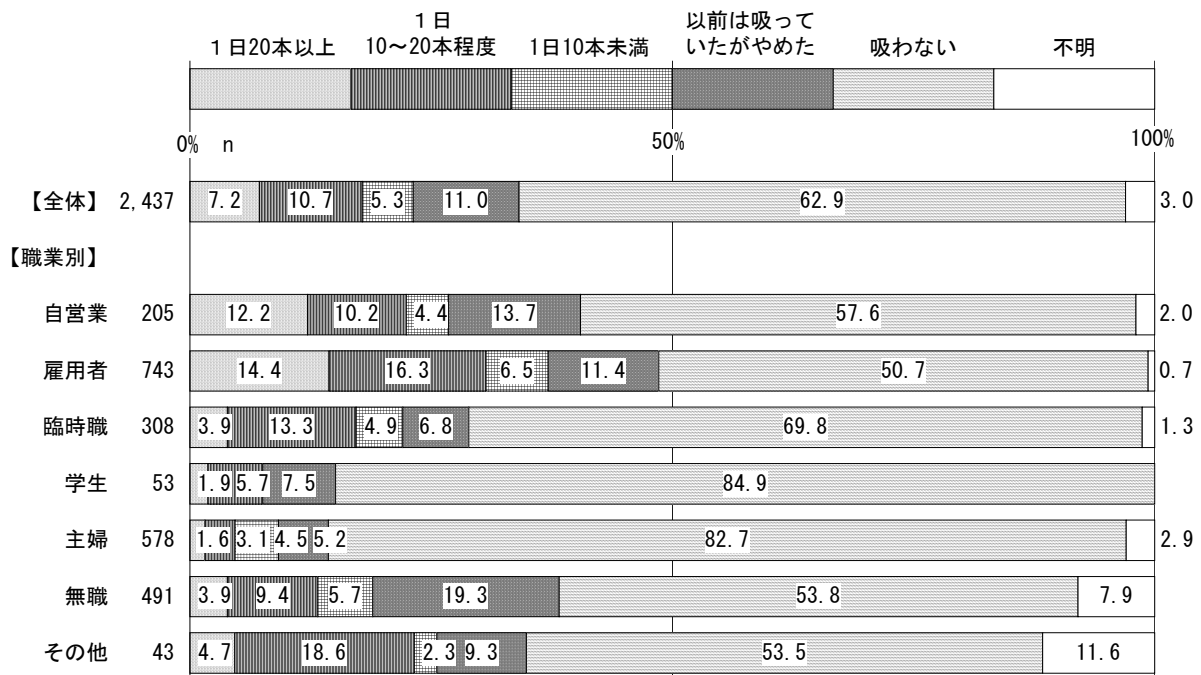
性別・年代別で見ると、男性の40歳以下で“吸う”方が多く5割前後となっており、特に30・40歳代では「1日20本以上」が2割を超えている。

前回調査と比較すると、“吸う”方の割合は男性20歳代で8%、50歳代で9%、60歳代で4%、70歳代で12%、女性20歳代で6%減少となっている以外はすべて微増となっており、特に女性の方で増加傾向が強い。

職業別に見ると、“吸う”方は『雇用者』で多く3割を大きく超えている。『学生』と『主婦』では“吸わない”方が9割前後となっている。

前回調査と比較すると、すべての職業で“吸う”方が減少しており、中でも『学生』では、前回の21.1%から7.6%に大幅減となっている。



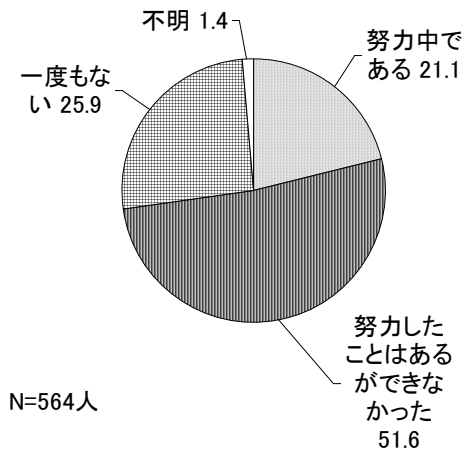


ES1①. 禁煙・節煙への取り組み

[設問]

S Q 1 ① あなたは、たばこをやめようとしたり、本数を減らそうとしたことがありますか。
(○は1つ)

[回答結果(全体)]



No.	回答	今回調査		前回調査 (平成12年11月)	
		件数	%	件数	%
1	努力中である	119	21.1	118	19.7
2	努力したことはあるができなかった	291	51.6	326	54.5
3	一度もない	146	25.9	147	24.6
4	不明	8	1.4	7	1.2
回答数		564	100.0	598	100.0

[回答結果(詳細)]

前問Q1においてたばこを“吸う”と回答した方(計564人)に、たばこをやめようとしたり、本数を減らそうとしたことがあるかどうか伺ったものである。

「努力したことはあるができなかった」が5割を超え(51.6%)、現在「努力中である」とした方が2割(21.1%)であった。「一度もない」とした方も1/4存在する(25.9%)。

前回調査と比較すると、「努力中である」とした方が微増となっている反面、「一度もない」も同程度の増となっている。

男女別に見ると、男女共最も多いのは「努力したことはあるができなかった」であるが、女性では「努力中である」方の割合が男性に比べ1割ほど高く、3割近くとなっている。

前回調査と比較すると、「努力中である」が男性で1%、女性で2%増加しているが、女性で「一度もない」方が6%増加している。

年代別に見ると、30～50歳代では「努力中である」割合が2割を切っている。

前回調査と比較すると、「努力中である」が20歳代で2%、40歳代で1%減少している。また30歳代では、「努力中である」が4%ほど増加している一方、「一度もない」が11%増加している。

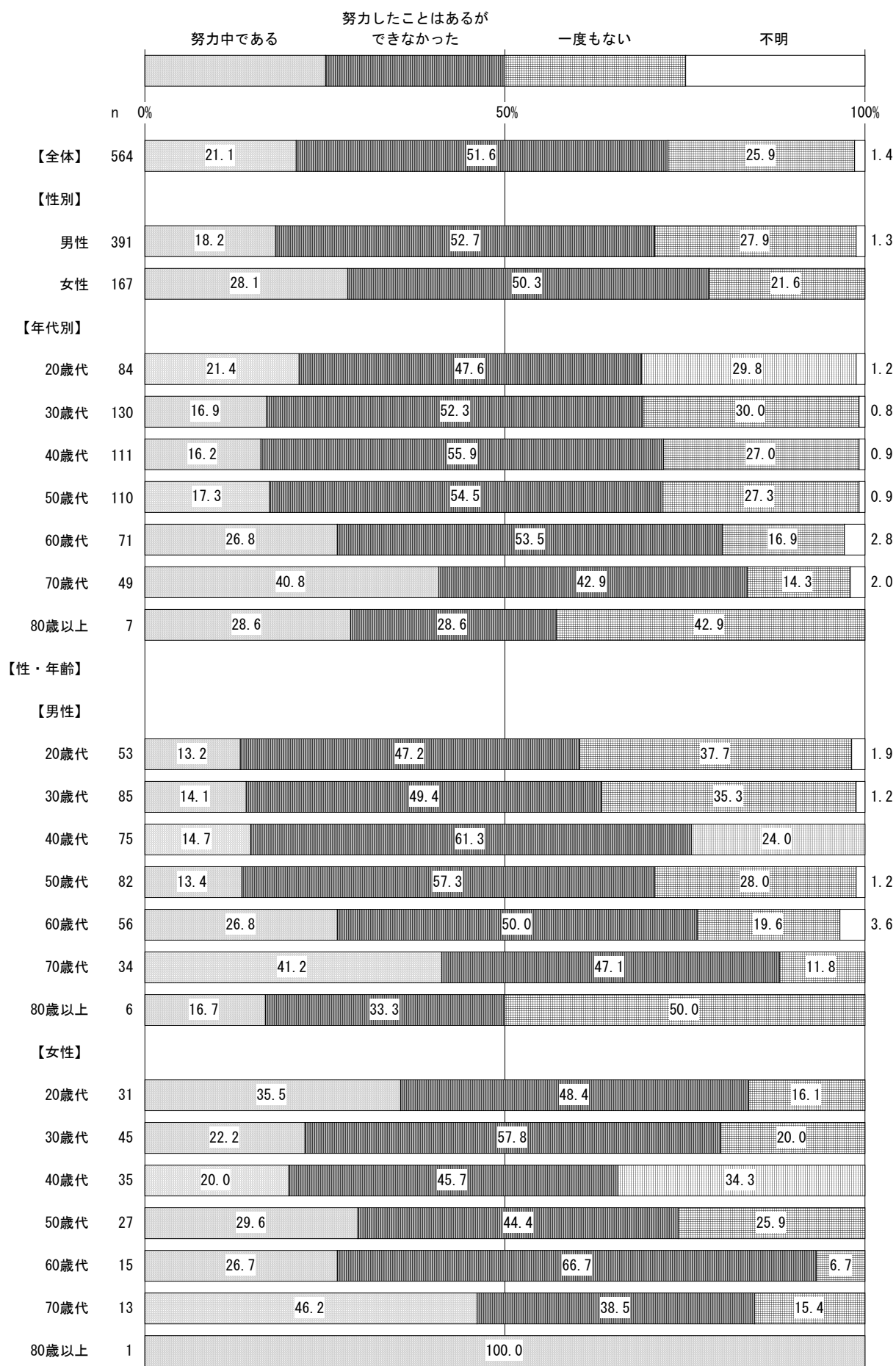
性別・年代別に見ると、全般的に、女性の方で「努力中である」方の割合が多く、男性では「一度もない」方の割合が多い。

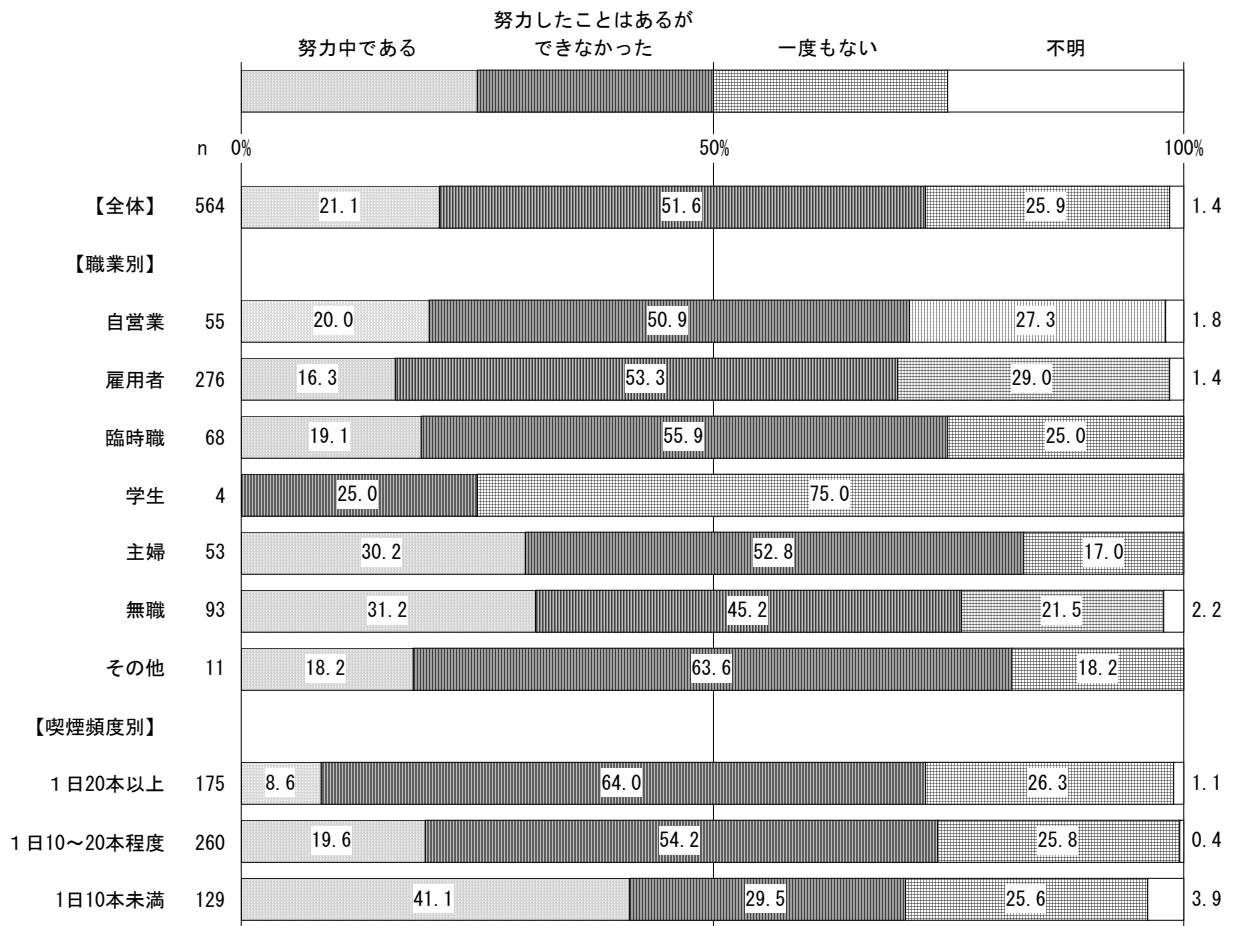
前回調査と比較すると、「努力中である」方の割合が男性60歳代で10%、70歳代で5%増加し、30歳代で「一度もない」方の割合が12%増加している。

職業別に見ると、『主婦』と『無職』で「努力中である」方の割合が3割である。

前回調査と比較すると、「努力中である」方の割合が『自営業』で7%、『主婦』で7%増加し、『臨時職』で「一度もない」方の割合が9%増加している。

1日当たりの喫煙本数別に見ると(喫煙者のみ対象)、1日当たりの喫煙本数が少ない方ほど「努力中である」ケースが多いことが分かる。また、『1日20本以上』の方では、「努力したことはあるができなかった」が6割を超えている。



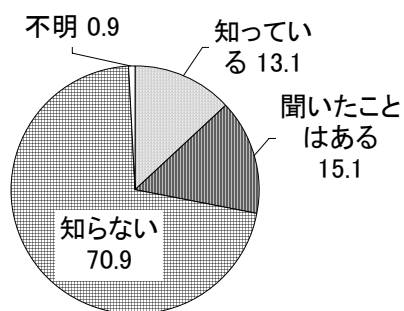


ES1②. 禁煙実施プログラムの認知度

[設問]

S Q 1 ② 仙台市では、各区役所・総合支所において、「禁煙サポート事業・禁煙講座」などのプログラムを実施していますが、あなたは、こちらをご存知ですか。(○は1つ)

[回答結果(全体)]



No.	回答	今回調査	
		件数	%
1	知っている	74	13.1
2	聞いたことはある	85	15.1
3	知らない	400	70.9
4	不明	5	0.9
回答数		564	100.0

N=564人

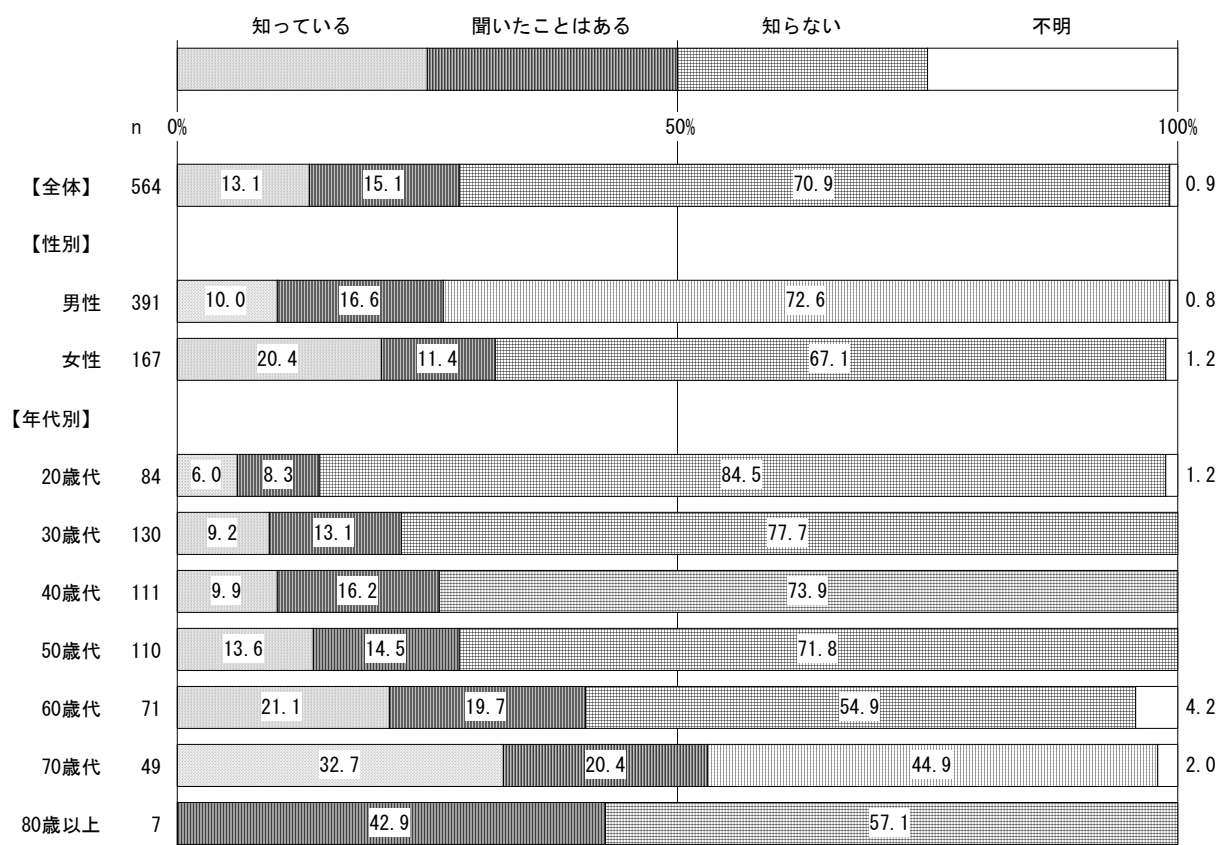
[回答結果(詳細)]

Q 1 でたばこを“吸う”と回答した方(計 564 人)に、仙台市(出先機関含む)で実施している「禁煙サポート事業・禁煙講座」等の各種プログラムの認知度を尋ねたものである。

「知らない」が7割(70.9%)で、“認知度”(「知っている」+「聞いたことはある」)は3割弱である(28.2%)。

男女別に見ると、“認知度”全般は女性の方で高く、「知っている」単体で見ても男性の倍ほどとなっている。

年代別に見ると、80歳以上を除くと、年代が上がるほど“認知度”が高くなる傾向にあり、最も高い70歳代(53.1%)と最も低い20歳代(14.3%)では4倍近くの格差がある。

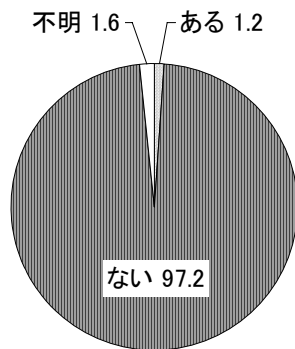


ES1③. 禁煙実施プログラムへの参加経験

[設問]

S Q 1 ③ あなたは、この「禁煙サポート事業・禁煙講座」のプログラムに参加したことがありますか。(○は1つ)

[回答結果(全体)]



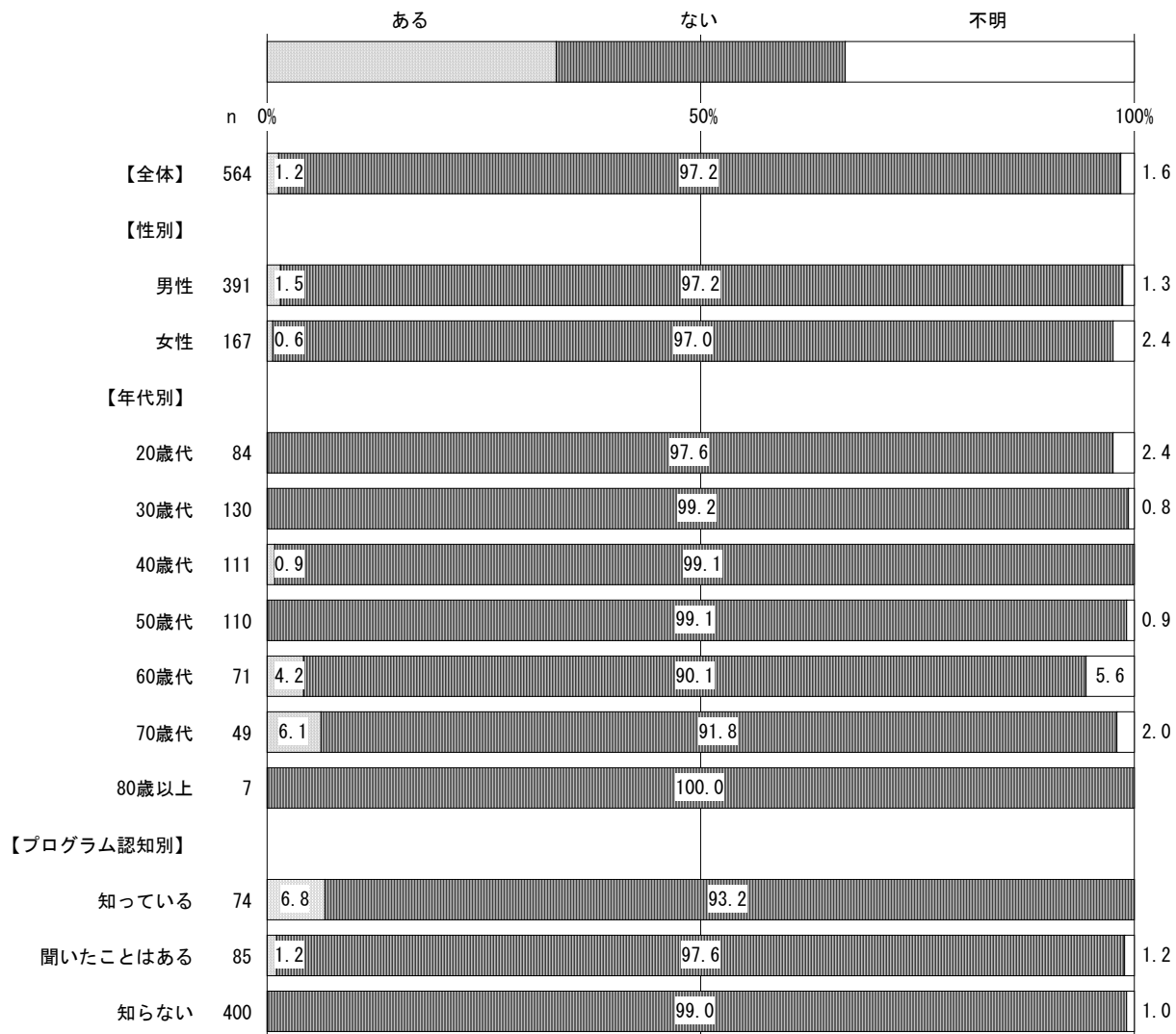
N=564人

No.	回答	今回調査	
		件数	%
1	ある	7	1.2
2	ない	548	97.2
3	不明	9	1.6
回答数		564	100.0

[回答結果(詳細)]

Q 1 でたばこを“吸う”と回答した方(計 564 人)に、仙台市(出先機関含む)で実施の「禁煙サポート事業・禁煙講座」のプログラムに参加したことがあるかどうか伺ったものである。

「ない」が大部分を占め(97.2%)、「ある」方は1%ほどしか存在しない(1.2%)。

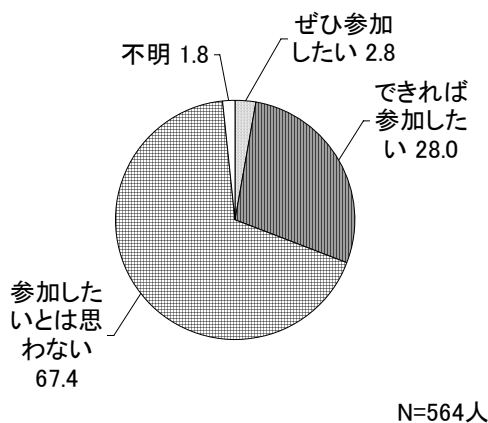


ES1④. 禁煙実施プログラムへの参加意向

【設問】

S Q 1 ④ あなたは、この「禁煙サポート事業・禁煙講座」のプログラムに参加してみたいと思いますか。(○は1つ)

【回答結果(全体)】



No.	回答	今回調査		前回調査 (平成12年11月)	
		件数	%	件数	%
1	ぜひ参加したい	16	2.8	32	5.4
2	できれば参加したい	158	28.0	209	35.0
3	参加したいとは思わない	380	67.4	349	58.5
4	不明	10	1.8	7	1.2
	回答数	564	100.0	597	100.0

【回答結果(詳細)】

Q 1 でたばこを“吸う”と回答した方(計 564 人)に、仙台市(出先機関含む)で実施の「禁煙サポート事業・禁煙講座」のプログラムに参加してみたいと思うか伺ったものである。

「参加したいとは思わない」が6割を大きく超え(67.4%)、「参加意向あり」(「ぜひ参加したい」+「できれば参加したい」)は3割にとどまっている。

前回調査と比較すると、“参加意向あり”とした方は1割減少しており、「参加したいとは思わない」が1割増となっている。

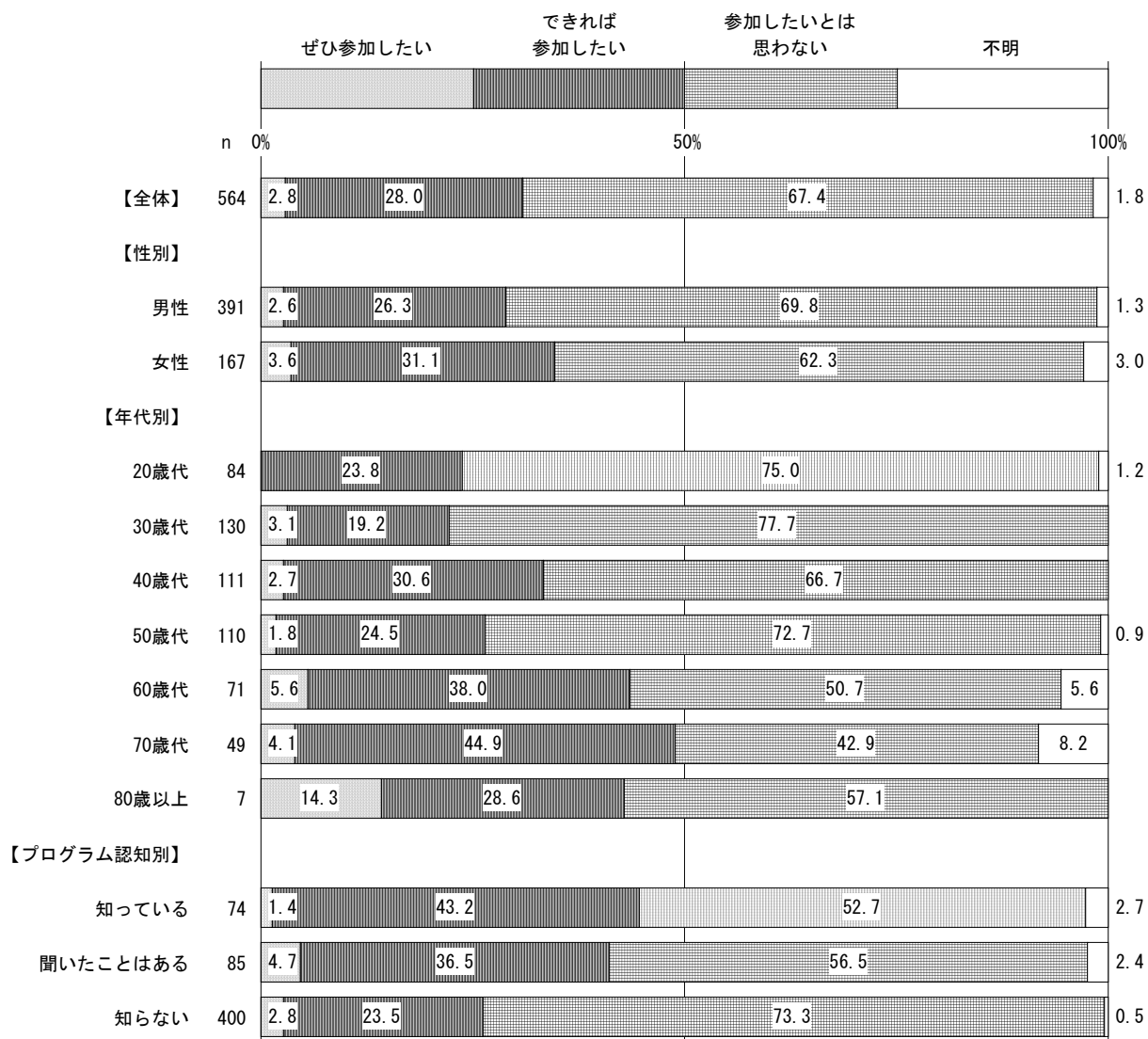
男女別で見ると、“参加意向あり”の割合は女性で高く、3割を超えている。

前回調査と比較すると、“参加意向あり”は男性で10%、女性で8%減少している。「参加したいとは思わない」は男性で11%増となっているが、女性では5%増となっている。

年代別に見ると、“参加意向あり”とした方は、60歳以上の高年齢層に多く4割を超えている。

前回調査と比較すると、“参加意向あり”とした方はほぼすべての年代で減少しており、特に30歳代で12%、50歳代で16%、60歳代で15%減少している。

「禁煙サポート事業・禁煙講座」の認知度別に見ると、全体的に認知度が高くなるほど“参加意向あり”の方が多くなる傾向にあるが、『知らない』とした方でも“参加意向あり”との割合が2割超存在する。

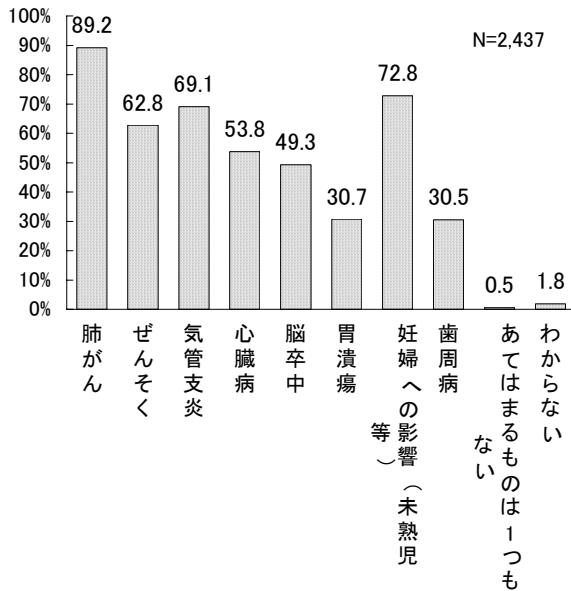


E2. たばこが健康へ及ぼす影響はどれだと思うか

[設問]

Q 2 あなたは、たばこが健康へ及ぼす影響はどれだと思いますか。あてはまるものをすべて選んで下さい。(〇はいくつでも(「9」「10」と回答する場合を除く))

[回答結果(全体)]



No.	回答	今回調査		前回調査 (平成12年11月)	
		件数	%	件数	%
1	肺がん	2174	89.2	2100	91.8
2	ぜんそく	1530	62.8	1497	65.4
3	気管支炎	1683	69.1	1651	72.2
4	心臓病	1310	53.8	1155	50.5
5	脳卒中	1201	49.3	814	35.6
6	胃潰瘍	749	30.7	748	32.7
7	妊婦への影響(未熟児等)	1775	72.8	1681	73.5
8	歯周病	743	30.5	627	27.4
9	あてはまるものは1つもない	13	0.5	7	0.3
10	わからない	44	1.8	40	1.7
11	不明	172	7.1	55	2.4
回答数		2437	100.0	2288	100.0

[回答結果(詳細)]

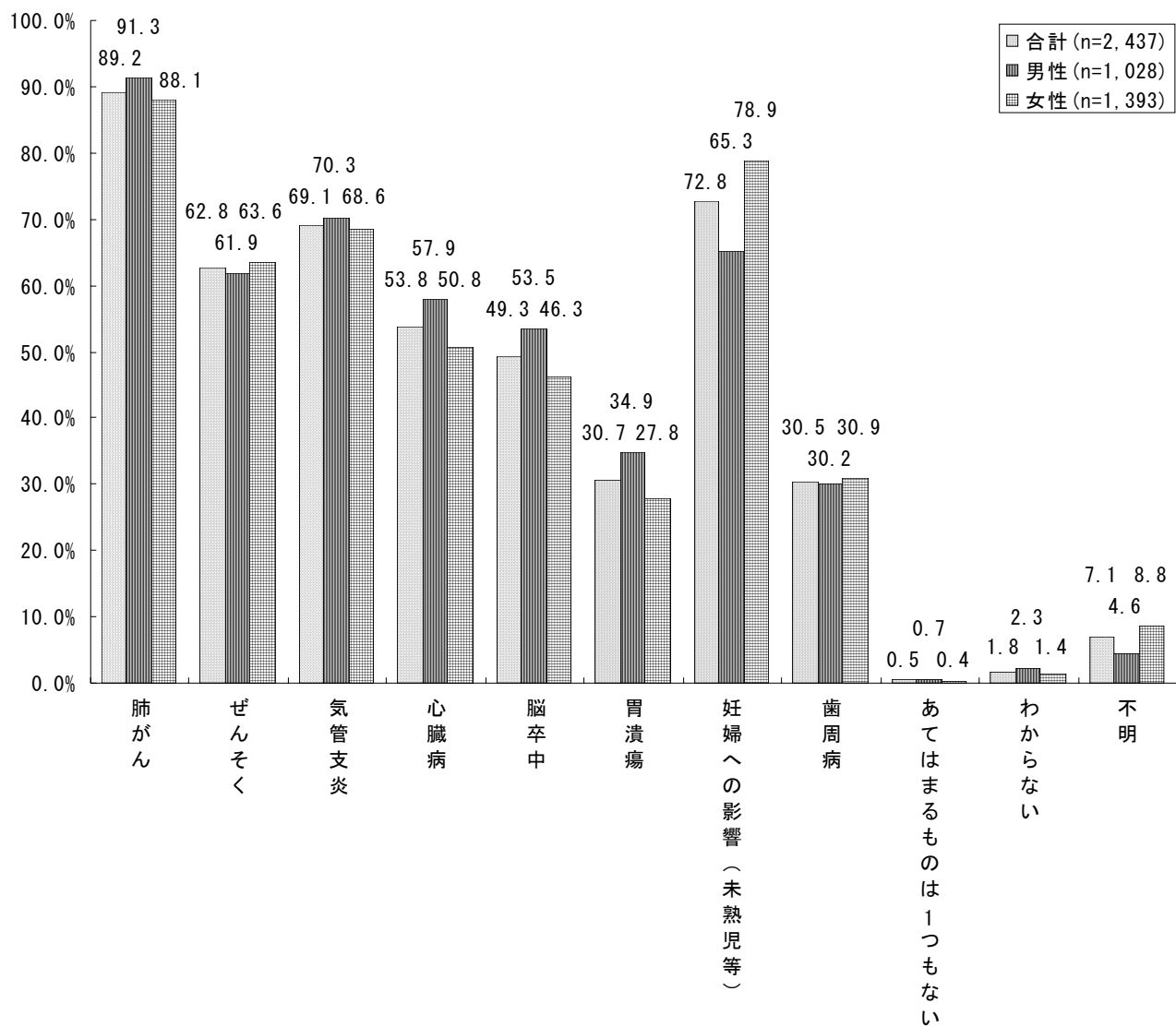
たばこが健康へ及ぼす影響(たばこが起因となる病気)について伺ったものである。

最も多かったのが「肺がん」で9割に達し(89.2%)、次いで「妊婦への影響(未熟児等)」(72.8%)、「気管支炎」(69.1%)、「ぜんそく」(62.8%)と続く。

前回調査と比較すると、「心臓病」、「脳卒中」、「歯周病」で増加しており、特に「脳卒中」では14%増加している。

男女別で見ると、男女共最も多いのは「肺がん」であるが、次点を見ると、男性では「気管支炎」、女性では「妊婦への影響(未熟児等)」となっている。

前回調査と比較すると、男性では「妊婦への影響(未熟児等)」が順位・割合(3%増加)共に上昇し、女性では順位こそ変わらないものの、「脳卒中」の割合が13%増加している。

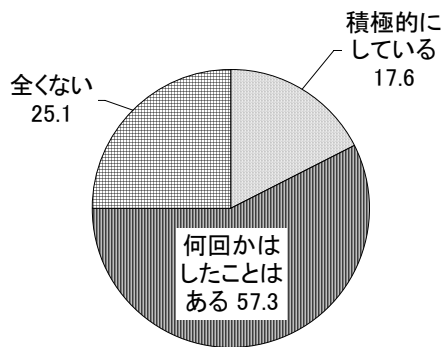


E3. (中・高校生がいる方) たばこの健康への影響の話

[設問]

Q 3 ご家族に、中学生・高校生がいる方のみに伺います。あなたは、たばこが健康に及ぼす影響についてお子さんと話をしたことがありますか。(○は1つ)

[回答結果(全体)]



N=398人

No.	回答	今回調査		前回調査 (平成12年11月)	
		件数	%	件数	%
1	積極的にしている	70	17.6	45	12.6
2	何回かはしたことはある	228	57.3	207	58.1
3	全くない	100	25.1	104	29.2
回答数		398	100.0	356	100.0

[回答結果(詳細)]

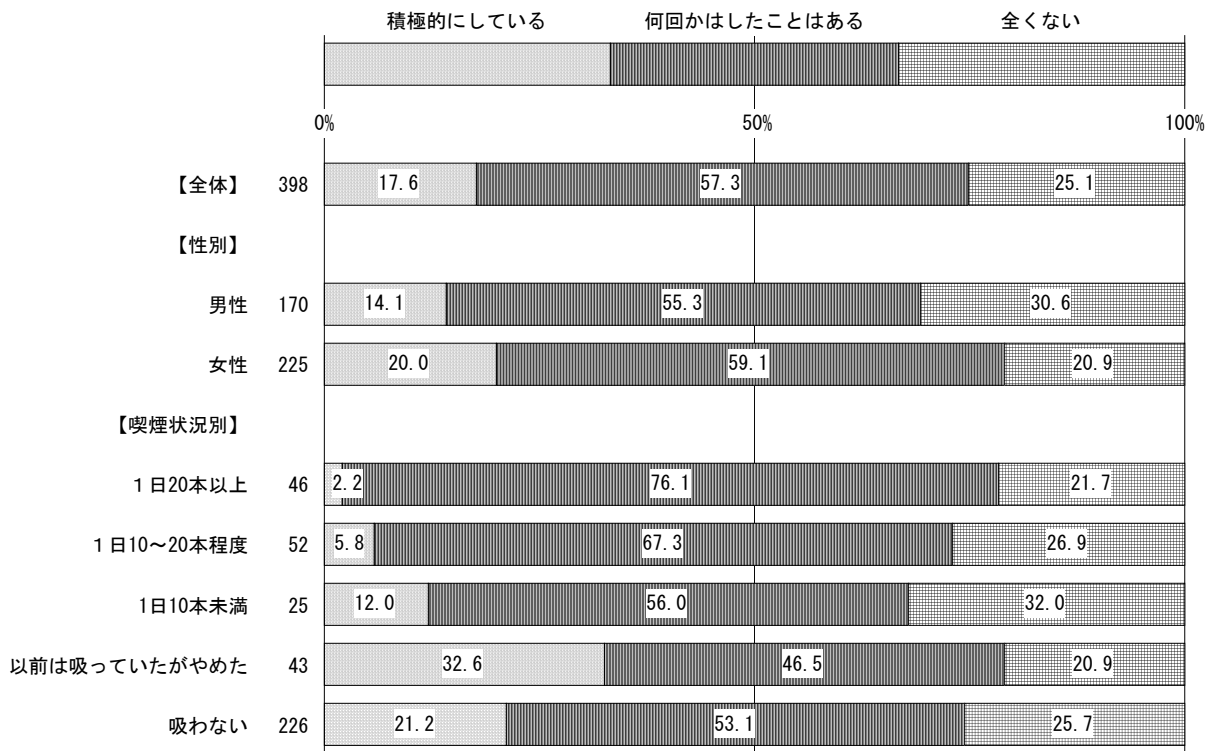
家族に中学生・高校生がいる方(計398人)に、たばこが健康に及ぼす影響についてお子さんと話をしたことがあるかどうか伺ったものである。

「積極的にしている」(17.6%)と「何回かはしたことがある」(57.3%)を併せた、“話をしたことがある”方の割合は7割を超えている一方、「全くない」とした方も1/4ほど(25.1%)存在する。

前回調査と比較すると、「積極的にしている」方が5%の増、「全くない」方が4%の減となっている。

男女別に見ると、“話をしたことがある”は女性の方で多く8割にも上っている。

前回調査と比較すると、“話をしたことがある”方は男性で9%、女性で0.2%増加しており、特に男性の方では、「積極的にしている」が6%増加している。

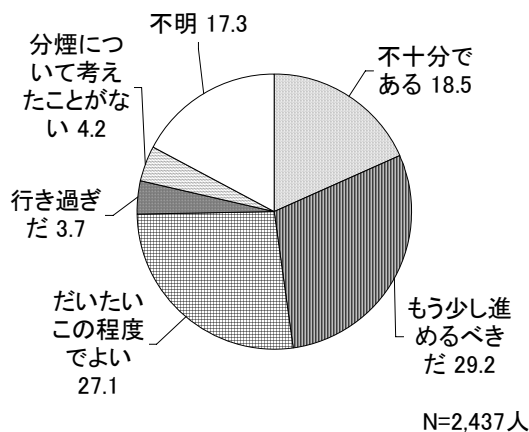


E4. 公共の場での分煙の状況について

[設問]

Q 4 あなたは、公共の場での分煙の状況についてどう思いますか。(○は1つ)

[回答結果(全体)]



No.	回答	今回調査		前回調査 (平成12年11月)	
		件数	%	件数	%
1	不十分である	450	18.5	528	23.1
2	もう少し進めるべきだ	712	29.2	771	33.7
3	だいたいこの程度でよい	660	27.1	549	24.0
4	行き過ぎだ	91	3.7	44	1.9
5	分煙について考えたことがない	103	4.2	126	5.5
6	不明	421	17.3	270	11.8
回答数		2437	100.0	2288	100.0

[回答結果(詳細)]

公共の場での分煙状況についてどう思うか伺ったものである。

“推進派”(「不十分である」+「もう少し進めるべきだ」)は5割弱(47.7%)で、“現状肯定派”(「だいたいこの程度でよい」)が3割弱(27.1%)、“否定派”(「行き過ぎだ」)は3.7%となっている。

前回調査と比較すると、実際に分煙(禁煙)場所が増加し、市民の方々の認知度も上がってきたこともあろうが、“推進派”が減少し、“現状肯定派”が増加する結果となっている。また、割合こそ少ないものの、「行き過ぎだ」とする“否定派”が倍の割合となっている。

男女別で見ると、“推進派”は男女共5割近く存在しており、女性の方にやや多い。喫煙者比率が高いのは男性の方であるが(Q 1・114 ページ)、それでも「行き過ぎだ」との“否定派”は5.9%で、“推進派”、“現状肯定派”の比率が高い。

前回調査と比較すると、“推進派”は男性で5%、女性で12%減少している。

年代別に見ると、“推進派”は50歳以下では5割を超えているが、それ以降では年代が高くなるほど減少する傾向にある。

前回調査と比較すると、前回同様60歳代以上で「不明」が多くなっていることから、『分煙』という言葉自体の認知度が、特に高齢者層においていまだ浸透しきれていない様子が伺える結果となっている。

職業別で見ると、“推進派”は『学生』で最も多く6割を超えている。

前回調査と比較すると、すべての職業において“推進派”が減少しており、代わりに「だいたいこの程度でよい」とする“現状肯定派”が増加している。

喫煙頻度別(喫煙の有無別)に見ると、全体的に非喫煙者や喫煙頻度が少ない方ほど“推進派”が多くなる傾向が顕著に現れており、『1日20本以上』の方と『吸わない』方では4倍近い格差が存在している。『1日20本以上』とした方では、「行き過ぎだ」の割合が2割を超えている。

前回調査と比較すると、“喫煙者”(『1日20本以上』+『1日10~20本程度』+『1日10本未満』)では、「行き過ぎだ」との回答が8%増加している。

